活字を友とする人と本屋と図書館の物語

鳥取を「図書館先進県」に変えた50年

鈴木暁彦・安藤隆一 著　四六判・280頁　定価2,420円（本体2,200円＋税10％）
ISBN978-4-8169-3108-6　2026年7月刊行

- 先進的な取り組みで注目されている鳥取県立図書館の発展を、公的な資料と関係者の証言で解き明かす。
- 鳥取県の活字文化を支え続けた、定有堂・奈良敏行のミニコミ誌、読書会の開催、今井書店・永井伸和の読書運動や公共図書館の充実を求める活動、「本の学校」創設など、図書館とのつながりを詳細に解説。
- 過去の事例だけでなく、現在の若い世代にその精神がどう受け継がれているか、現役世代の声も収録。地域文化の振興を考える上でも参考になる資料。

目次

はしがき／目次
第1章　定有堂書店と図書館フォーラム
第2章　街の本屋とタウン誌
第3章　今井書店グループと永井伸和
第4章　地域社会と今井書店グループ
第5章　鳥取県立図書館と「鳥取モデル」の提示
第6章　県民全体に図書館サービスを提供する
終　章　共著者による対談
あとがき／資料編／参考文献／索引

執筆者略歴

鈴木暁彦（すずき・あきひこ）

長崎県立大学国際社会学部国際社会学科教授。早稲田大学法学部卒、放送大学大学院文化科学研究科修士課程修了・修士（学術）。

1962年生まれ。1985年朝日新聞入社、鳥取、神戸支局員、東京・大阪経済部員、北京支局員（中国総局員）を経て大阪経済部次長、広州支局長などを務める。退職後、関西学院大学国際学部国際学科の非常勤講師などを経て2016年4月から現職。マスコミュニケーション論などを担当。共著に『奔流中国21　新世紀大国の素顔』（朝日新聞出版）、『奔流中国　21世紀の中華世界』（朝日新聞社）。

安藤隆一（あんどう・りゅういち）

元鳥取県立公文書館長、鳥取市のタウン誌『スペース』の元編集長・発行人。関西学院大学経済学部卒、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程修了・博士（政策科学）。

1948年生まれ。1977年鳥取県庁入庁、労働雇用課長、公文書館長などを歴任。退職後、しんきん南信州地域研究所主席研究員（飯田市）、岡山理科大学総合情報学部（現情報理工学部）非常勤講師を務める。著書に『ほんものの地域づくりへ』（小取舎出版）。編著に『地域づくり読本』（文理閣）。共著に『入門・文化政策』（ミネルヴァ書房）、『観光文化と地元学』（古今書院）。

＊「内容見本」は裏面をご覧ください。

202606

お問い合わせは…　**日外アソシエーツ　営業局**　TEL.03-3763-5241（代）　FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16　https://www.nichigai.co.jp/

注文書	活字を友とする人と本屋と図書館の物語 —鳥取を「図書館先進県」に変えた50年 定価2,420円（本体2,200円＋税10％） ISBN978-4-8169-3108-6	冊	取扱書店 9784816931086

活字を友とする人と本屋と図書館の物語

鳥取を「図書館先進県」に変えた50年

内容見本

（1）定有堂と県立図書館

鳥取市にあった街の本屋「定有堂書店」は、1980年10月に開店した。本好きが集う読書会「読む会」を開いてきたほか、店主の奈良敏行は、書き手から原稿を募って、書評や論考をまとめた小冊子を刊行してきた。定有堂開店の少し前、情報発信を通して「自己実現」を目指した人たちが1978年12月、鳥取市でタウン誌『スペース』を創刊していた。いずれも活字を載せた紙媒体を通して、地域文化を支えた動きである。まず、奈良の活動に触れたい。

月刊の書評誌『定有堂JOU
人のほか、本好きの仲間たちが投
念誌』（2021年3月）に「存

——定有堂書店は開業40年
密だ。〝本は一人で読んでも
堂JOURNAL」（以下「
1989年）に発刊した。
平成3（筆者注：1991
場はどこですか」というタイ

▲ 第2章　街の本屋とタウン誌

（1）本屋と公共図書館の連携

今井書店の5代目経営者、永井伸和（1942年生まれ）は、鳥取県図書館協会の研修会に講師として招かれ、2021年6月25日、米子市立図書館で講演した。研修会のテーマは、「本のある地域づくりのあゆみ～本屋と図書館の間にあるもの～」で、これまで取り組んできた地域文庫活動や図書館づくり運動、活字文化や出版業界に対する書店経営者としての思いなど、幅広く語った。

鳥取県図書館協会は、地方公共団体、大学、学
図書館、県学校図書館協議会、鳥取大学附属図
プ、県書店商業組合、市長会、町村会の責任者
堂に集う重要な組織だ。

永井は、鳥取県米子市に本店を置く今井書店
1872年まで遡り、鳥取、島根両県を守備範
永井は同時に、鳥取県境港市の自宅近くの集会
文庫」を開き、街の読書運動に携わってきた。

当時、鳥取県は「図書館後進県」と言われる
るため読書グループと連携し、生まれた児童文
の後押しで、鳥取、米子、倉吉、境港の4市に

▲ 第3章　今井書店グループと永井伸和

特産品編」「歴史・伝統編」「情報編」「人物編」のテーマごとに、参考図書、参考となるインターネットサイト、関係する県内施設、県立図書館2階郷土資料室の利用案内が紹介されている。

学校図書館や学校司書の支援に留まらず、多忙で図書館に立ち寄る余裕もない教員たちのために、県立図書館ができることを考え、さまざまなメニューを揃えていることが分かる。

（9）前館長小林隆志のメッセージ

鳥取県立図書館前館長の小林隆志は、依頼を受けたら可能な限り講演会場に出かけて、図書館サービスについて語り続けている。図書館は「本好きの人たち」のためにだけ存在するのではなく、多くの人の生活や仕事に関わりのある存在だと知らせるためだ。実際、鳥取県立図書館は、地域に貢献する図書館を理念に掲げている。県全体に図書館サービスを行き渡らせるため、市町村立図書館や大学図書館、学校図書館などとの連携強化に長く携わってきた小林に、実践に基づいた「都道府県立図書館の役割」と「図書館職員の仕事」を語ってもらった。

【図書館サービスは1館では行き届かない】

これは自館も含めてですが、日本中の都道府県立図書館がもっともっと元気になると、図書館サービスも向上するのではないかという気持ちがあります。都道府県立図書館と市町村立図書館、学校

◀ 第5章　鳥取県立図書館と「鳥取モデル」の提示